

市民が主体となった共助による地域支援推進事業

平成 28 年度活動報告書



特定非営利活動法人

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

はじめに

平成 26 年度から開始した、ひまわりハウスを拠点とした活動は、一貫して「市民が主役…」、「市民が主体…」をテーマに、地域課題に向き合ってきました。

この間、地域住民の皆さま方をはじめ、地域のコミュニティ協議会、自治会、企業、NPO 法人、社会福祉法人、行政等から様々なご協力をいただけたこと、また、3 年間を通して、独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業を活用させていただけたことで、一定の成果を産むことができたと感謝しております。

新たな活動拠点（ひまわりハウス）も増え、今年度より姶良市内 5 か所で活動が行われるようになりました。

3 年間の活動の成果を礎に、新たにスタートする気持ちで平成 30 年度以降の活動に取り組んで参ります。

本報告書発刊にあたり、これまで、本事業へ活動の支援とご尽力をいただきました皆さま方に深く謝意を表しますとともに、今後とも一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成 29 年 3 月
特定非営利活動法人 L かごしま

目次

事業実施の背景と経緯

平成 26 年度「市民が主役の街づくりモデルケース構築事業」	・・・・ 1
平成 27 年度「市民が主役のひまわりハウス活動推進事業」	・・・・ 1
平成 28 年度「市民が主体となった共助による地域支援推進事業」	・・・・ 2

事業内容・実績

ひまわりハウスたかちほでの取組	・・・・ 3
松原地域内に新たに誕生した 2 か所のひまわりハウス	・・・・ 6
重富地区でのひまわりハウス活動	・・・・ 7
なぎさ未来塾 ひまわりハウス「わいわい食堂」	・・・・ 8
視察研修受入等	・・・・ 9
おわりに	・・・・ 11

資料

事業実施の背景と経緯

当法人は、平成 26 年度より独立行政法人福祉医療機構の社会福祉振興助成事業を活用し、姶良市松原地域内において、空き家を活用した地域住民の憩いの場「ひまわりハウス」を、地域の方々と協働で運営。高齢者支援活動や異世代間交流活動等様々な活動を行い、利用者の総数が、平成 26 年度延べ 674 名、平成 27 年度延べ 1,007 名、平成 28 年度延べ 1,214 名（3/22 現在）となり、活動が徐々に地域に根付いたものとなっている。

平成 26 年度

『市民が主役の街づくりモデルケース構築事業』

【事業概要】

当事業では、地域の空き家を借り受け、地域住民の憩いの場（ひまわりハウス）とし、「継続的なひまわりハウス運営協議会の開催」「空き家を活用したひまわりハウスの運営」「ひまわりハウスにおける高齢者支援活動」「ひだまりの縁側、異世代間交流活動」等を実施し、
①空き家発生の抑制と、その利活用について地域住民の意識向上
②異世代間交流の活性化、高齢者の生きがいづくり支援、地域住民同士の共助の取組の活性化
③アンケートやワークショップを事業開始当時から継続的に行うことで、住民ニーズの変化や、利用者の地域活動への参加意識を把握
④利用者や協議会委員が地域の将来の姿をイメージし、地域活動を続けることによる地域の実情に沿ったひまわりハウスの運営
⑤これらの活動を継続的に行うことで、高齢者の健康寿命の延伸による医療費削減や介護費用の抑制、空き家の有効利活用推進等に繋がり、また、地域課題を地域住民自身の力で解決していく等の効果が期待できた。

【事業の成果】

初年度の平成 26 年度は、延べ 674 名の方々がひまわりハウスにおける様々な活動に参加した結果、放置空き家の発生の抑制および、その利活用における住民意識の向上、異世代間交流の活性

化、高齢者の生きがいづくり支援、地域住民同士の共助の気持ちが芽生える等の効果が得られた。

【事業を終えての課題】

初年度の様々な取組を終え、以下の課題が抽出された。

- ①ひまわりハウスの利用者目標総数未達成
- ②ひまわりハウスの活動をさらに充実・発展させるための活動スペース（空き家等）の確保
- ③運営のための自主財源確保、等の課題が残り、また、協議会委員や利用者からは、今後
 - ①自宅での入浴に不安を抱く利用者が、他の利用者の見守りがある中、ひまわりハウスで入浴ができるようにする
 - ②遠方に暮らす地域出身者が帰省する際の簡易的な宿泊施設としての利用ができるようにする
 - ③買い物に行っても、重いものは持てることのできない高齢者等への、買い物支援の仕組みづくり
 - ④独居高齢者の中で、火元・水元などが心配で、自宅での食事づくりに不安を持っている方々が、ひまわりハウスで一緒に料理し、食事をする等の提案が出され、平成 27 年度以降の活動目標となつた。

平成 27 年度

『市民が主役のひまわりハウス活動推進事業』

【事業概要】

平成 26 年度の『市民が主役の街づくりモデルケース構築事業』で行った活動をより充実・発展させ、地域の高齢者や障がい者をはじめとする地域住民が心身ともに健康的な地域生活を送れるようすることを目的とし前年度の取組に、

- ①県内先進事例視察（2か所を視察）
- ②広報紙「ひまわり通信」の発行（月 1 回発行）を加えた。

ひまわりハウスの取組について、定期的に広報活動を行うことで、より広く地域の方々に知ってもらい、事業の内容や主旨を理解していただく。そして、受益者負担・寄附金による自主財源でひまわりハウスの運営が可能となるよう、また、ニーズに対応し、新たなひまわりハウスがつくれるよ

う、空き家や寄附金の提供を求めた。

その他、ひまわり活動のボランティアグループをつくり、姶良市のボランティアポイント制度等を活用しながら、活動がより地域住民の主体的な取組になることを目標とした。

【事業の成果】

平成 27 年度は、延べ 1,007 名の方々がひまわりハウスにおける様々な活動に参加した。

また、平成 26 年度の「ひだまりの縁側、異世代間交流活動」で実施した、「ミニコンサート」「手芸教室」がきっかけとなり、音楽サークルや手芸サークル等が立ち上がり、ひまわりハウスを拠点として定期的に活動した。

週 1 回活動を行っている音楽サークル「ドリームひまわり」は、ひまわりハウスでの練習の成果を、地域の介護施設や敬老会などで披露。また、月 2 回活動を行っている手芸サークル「ひまわりガールズ」は、できあがった作品を地域のイベントなどで販売し、売り上げの一部をひまわりハウスの運営費に充てる等、活動はひまわりハウスを飛び出し、地域に広がっていった。

このように、利用者の増加や、活動の広がり等、ひまわりハウスの活動が徐々に地域に根付いたものとなつた。

また、買い物支援の取組として、ひまわりハウス内で、連携団体である NPO 法人あぐり俱楽部姶良松原による野菜や米、日常必要な消耗品、衣類などを販売し、利用者に喜ばれた。

【事業を終えての課題】

平成 26 年度の事業終了後の課題として、

①ひまわりハウスの活動をさらに充実・発展させるための活動スペース（空き家等）の確保は、平成 27 年度も未達成

②運営のための自主財源確保も有効な手段が見つからなかつた

事業の内容や主旨を地域内だけにとどまらず、地域外でも積極的に広報し、賛同者・協力者の確保に努めることで、上記の課題を解決する取組を進めていくことが大きな課題として残つた。

平成 26 年度及び平成 27 年度の事業報告書は、

当法人ホームページに掲載。

<http://el-kagoshima.net/>

平成 28 年度

『市民が主体となった共助による地域支援推進事業』

【現状と課題】

平成 26 年度、平成 27 年度と事業を行つたが、

①地域内にひまわりハウスが 1 件しかないという現状では、その利用者は、高齢者等が無理なく移動できる範囲内（徒歩で 15～20 分以内程度）に居住している方々に留まつてゐる。より多くの孤立しがちな高齢者等が地域内で安心して暮らすために、広範囲に複数の活動拠点整備が必要

②現状の受益者負担（利用料や参加料）だけでは運営に係る経費を捻出することができない等の課題が残つた。

【アンケート調査】

平成 27 年度中、ひまわりハウス利用者、および利用したことのない地域住民のべ 243 名にアンケート調査を実施したところ、全体的には地域生活を送る上での困りごとを相談する場等のニーズが多かった。

シニア層（60 歳代以上）では、移動手段や買い物支援へのニーズが高く、また、健康面において今後の生活に不安を抱いている方が多かった。

また、若壮年層（50 歳代以下）においては、ひまわりハウスにおいて、子どもを対象とした活動へのニーズが高く、また、経済面、将来における健康不安を感じる方の比率が比較的高かった。

通常の活動中、ひまわりハウス管理当番による口頭でのニーズ調査では、ひまわりハウスでの活動には多くの方々が満足しているとの結果がでた。

平成 28 年度は、平成 26 年度、平成 27 年度に行った取組に加え、上記の課題、地域住民のニーズを踏まえた上で、新たな活動にも取り組んだ。

『ひまわりハウスたかちは』での取組

ひまわりハウス運営協議会

ひまわりハウス運営協議会は、事業実施に係る現状・課題の把握、共有、検討および事業の進捗管理のため、開設当初から月に1回開催された。

今年度も、毎月1回、合計12回開催され、活動・収支報告、活動予定、各イベントの実施計画等が協議された。

協議会メンバーは、事業協力団体である、地域自治会の会長、コミュニティ協議会の会長、NPO法人の代表者、および地域の民生児童委員、老人会会长等で構成され、オブザーバーとして、社会福祉協議会の方々に参加していただくこともあった。

地域の空き家を活用した ひまわりハウスの運営

【開所日・開所時間】

開所日は、基本的に火曜日から金曜日。時間は、午前10時から午後4時までとし、地域住民からの要望により、通常開所日（時間）外利用として、上記以外の曜日・時間にも開所した。

【ひまわりハウスの管理】

ひまわりハウス協議会員が当番制でハウスのカギの開閉、開所中の利用者へのケア、管理日誌の記入、ハウスの保守管理を行った。

【通常活動日数・利用者数】

「ひまわりハウスにおける高齢者支援活動」および「ひだまりの縁側、異世代間交流活動」等、特別なイベントが開催されない通常活動日の利用者数は、3月22日時点で926名となった。

平成26年度は317名、平成27年度は683名の利用実績があり、平成29年度も利用者数は順調に伸びた。

通常開所日（時間）外利用として、PTAの会合や、地域の懇親会、グランドゴルフ大会の反省会等、通常の開所日・時間以外における団体（10～20名）での利用が増加していることも、全体の利用者数增加の要因となった。

※3月の開所日数と利用者数は3月22日までの数

	開所日数	利用者数
4月	16	62
5月	17	106
6月	22	160
7月	14	54
8月	19	65
9月	14	64
10月	17	99
11月	11	64
12月	10	60
1月	14	75
2月	15	69
3月	10	48
合計	179	926

通常活動日利用者数 926名
他活動参加者数 288名
合計 1,214名

ひまわりハウスにおける 高齢者支援活動（全16回）

地域内で孤立しがちな高齢者等に対し、将来に対する不安を軽減し、生きがいを持って日々の生活を送ってもらうことを目的とした活動。

定期的な食事会や、地域内の企業や、技能を持つ個人が講師を務める講座を開催した。

【ひまわりごはん（全11回）】

独居高齢者の孤食等によるリスク削減のための食事会だが、高齢者に限らず地域で暮らす様々な年代の方々が参加し、地域住民同士のコミュニケーションの活性化にも繋がる取組となった。

開催日は、毎月15日。お盆休みと重なった8月を除き、合計11回開催され、のべ143名が参加した。

【健康体操講座（全2回）】

○開催日 平成29年1月17日

平成29年2月21日

○参加者数合計 33名

簡単な体操や、しりとりなどの頭の体操を行うい、介護予防に繋げる講座。笑い声の飛び交う和気藹々とした雰囲気の中での講座となった。

【介護講座（全2回）】

■第1回「タブレットで脳若トレーニング」

○開催日 平成29年3月8日

○参加者 10名

姶良市内で、介護用品の販売・レンタル、住宅改修を行うリバティウェルネス株式会社から講師を招き、タブレットのアプリケーションを使った認知症予防プログラムを楽しんだ。初めてタブレットを使う参加者もいたが、使い方にもすぐ慣れ、ゲーム感覚で認知症予防の体験をすることができた。

■第2回「簡単介護予防体操講座」

○開催日 平成29年3月12日

○参加者 16名

簡単な介護予防体操をしながら血液、リンパ、気の流れを知る講座。参加者同士が普段の生活の中での身体的な悩み等を話合い、講師にアドバイスを求めるなどした後、足心術を取り入れた体操を行った。



初めてタブレットを使う参加者もいたが、使い方にもすぐ慣れ、ゲーム感覚で楽しむことができた



3月12日に行われた『簡単健康体操』の様子。ストレッチ運動中

※ひまわりハウスたかちほでは、手狭だったため、ひまわりハウスさくらじまで実施



3月15日に行われた『ひまわりごはん』の様子



2月21日に行われた第2回健康体操の様子

ひだまりの縁側、異世代間交流活動（全6回）

地域で暮らす子どもやその保護者、高齢者や障がい者とのふれあいの会を開催し、異世代間の交流を通して、地域住民間のコミュニケーションが活性化されることで、高齢者や障がい者、子どもの見守り、子育て支援等、他の地域課題解決に繋がることを目的とした活動。

【お花見会】

○開催日 平成28年4月7日

○参加者 14名

【七夕飾りをつくろう】

○開催日 平成28年8月6日

○参加者 14名

【観月会】

○開催日 平成28年9月15日

○参加者 17名

【クリスマスコンサート】

○開催日 平成 28 年 12 月 25 日

○参加者 23 名

【そば打ち体験】

○開催日 平成 28 年 12 月 26 日

○参加者 20 名

【竹細工に挑戦】

○開催日 平成 29 年 2 月 18 日

○参加者 15 名



4月7日、「お花見会」。当日は雨模様で、室内での開催となつたが、ハーモニカの演奏なども行われ楽しい一日となつた



12月27日、「クリスマスコンサート」の様子



2月18日、「竹細工に挑戦」の様子



9月15日、「観月会」。ナンコ大会を楽しむ参加者



12月26日、「そば打ち体験」の様子

その他の活動

毎月 1 回開催される、ひまわりハウス運営協議会では、様々な企画提案がされ、活動の幅が広がっていく。

現状では、月に 1 回程度の取組もあるが、活動が活発になれば、サークルとしての活動に進展し、新たな生きがいづくりの創出へと繋がることが期待できる。

【館長ランチ】

ひまわりハウスの館長が腕を振るう昼食会。月に 2 回開催されている。人気が多く、毎回 10 名程度、多いときは 20 名ほどが参加している。

【人恋酒場】

独居高齢者（主に男性）が、参加者の中心。「家で一人晩酌をするよりも楽しい」と月に 1 回、5 ~ 10 名の参加者が集い、楽しい一夜を過ごす。

【よろず相談】

平成 27 年度中、ひまわりハウス利用者および利用したことない方のべ 243 名にアンケート調

査を実施。全体的には地域生活を送る上での困りごとを相談する場等のニーズが多かった。

これを受け、地域の民生児童委員（ひまわりハウス運営協議会委員）が担当し、要望に応じて相談に乗っている。

【大正琴に合わせて唄う会】

大正琴の演奏を趣味とする、ひまわりハウス運営協議会委員が中心となって月に1回活動している。年末のクリスマスコンサートにも出演し、生きがいづくりのひとつとなっている。

【わいわいひまわり】

日頃の活動の中で、「きっかけがないと、なかなかおしゃべりを楽しむことが難しい…」と感じた運営協議会委員が発案し、あえて「おしゃべりを楽しむ日」を設けた。参加者は女性が中心。

ひまわりハウスで行われるサークル活動

現在、ひまわりハウスを拠点として活動しているサークルは、『ドリームひまわり（音楽サークル）』、『ひまわりガールズ（手工芸サークル）』、『囲碁・将棋の会』、『P C俱楽部』。

定期的なひまわりハウスでの活動の他に、『ドリームひまわり』は、地域のイベントや介護施設等にてボランティア演奏。『ひまわりガールズ』は、活動でできた作品を地域のイベントに出品し、売り上げの一部は、ひまわりハウスの運営費に寄付している。



►地域内の松原なぎさ小学校PTA祭に出店した「ひまわりガールズ」の活動。このPTA祭には、「ひまわりキッチン（料理クラブ）」も参加し、カレーライスを販売した



◀「ひまわりハウスたかちほ」にほど近い介護施設「さざんか園」でのボランティア演奏会。「ドリームひまわり」の活動

松原地域内に、新たに誕生した 2か所のひまわりハウス

ひまわりハウスの活動を進める上で平成26年度からの課題のひとつであった、新たなひまわりハウスの開設が今年度実現した。

歩いて無理なく通える憩いの場が、地域内に複数個所できたことで、自宅に引きこもりがちな高齢者や障がい者が、地域で暮らしていくまでのリスクがさらに減り、また、各ひまわりハウスの交流活動等により、地域住民間のコミュニケーションもさらに活性化することが期待できる。

新たなひまわりハウスでの活動

新設されたひまわりハウスのひとつは、『ひまわりハウスさくらじま』で、今年度中に2回の活動を行った。活動場所は、松原地区公民館内。

【手芸とランチを楽しむ会】

○開催日 平成29年1月20日

○参加者 17名

【童謡を唄う会】

○開催日 平成29年2月14日

○参加者 16名



「ひまわりハウスさくらじま」の活動は、松原地区公民館を使用



1月20日、「手芸とランチを楽しむ会」の様子



2月14日、「童謡を唄う会」の様子

もうひとつのひまわりハウスは、『ひまわりハウス吉野』で、3月27日より活動が始まった。



「ひまわりハウス吉野」



3月27日、「ひまわりハウス吉野」の活動の様子(23名参加)

広報紙「ひまわり通信」の制作・発行・配布

ひまわりハウスの活動を地域住民に広く知ってもらうため、月に1回、『ひまわり通信』を作成。現在、2,500部を印刷し、地域内で配布している。

ひまわり通信は、今年度から2か所のひまわりハウスを開設した重富地区でも同地区版を制作・配布している。



「ひまわり通信」

重富地区でのひまわりハウス活動

今年度、重富地区校区コミュニティ協議会の協力を得て、姶良市内重富地区にも、新たな「ひまわりハウスが2か所誕生した。今年度中の活動は不定期だったが、来年度から地域住民のニーズに沿ったプログラムを企画し、定期的な活動を始める。今年度は、2か所のひまわりハウスで合計5回の活動が行われ、のべ71名の地域住民が活動に參加した。

「ひまわりハウスしげとみ」の活動

【三味線に合わせ歌を唄う会】

○開催日 平成29年1月16日

○参加者 27名

【折り紙とおしゃべり会】

○開催日 平成29年2月28日

○参加者 10名

【雛祭りとおしゃべり会】

○開催日 平成29年3月13日

○参加者 10名



「ひまわりハウスしげとみ」



1月16日に行われた「三味線に合わせて歌を唄う会」の様子



2月28日、「折り紙とおしゃべり会」の様子



3月13日、「雛祭りとおしゃべり会」の様子

「ひまわりハウスしらがね」の活動



「ひまわりハウスしらがね」

【雛人形飾り】

○開催日 平成2月8日

○参加者 11名

【折り紙教室】

○開催日 平成29年3月2日

○参加者 13名



2月8日、「雛人形飾り」の様子

なぎさ未来塾 ひまわりハウス「わいわい食堂」

※助成事業外の取組

松原地区公民館において、地域内の教職員経験者等の人材を活かし、子どもたちを対象とした学習支援ならびに、貧困に悩む家庭のみならず、日常孤食の多い子どもや独居高齢者、独身者を対象に定期的な食事の提供を行い、地域の子どもたちの健やかな成長促進を図るほか、栄養不足等の解消、コミュニケーションの活発化、心のケア、生活習慣病の予防、食育、公共の場でのマナー向上に繋がることを目的とした活動。

今年度2回の開催だったが、来年度より月に2回、夏休み期間中等は、さらに回数を増やして開催する予定。



2月11日、第1回目の「なぎさ未来塾 ひまわりハウスわいわい食堂」では、64名の利用者を44名の地域ボランティアが迎えた

視察研修受入等

平成 26 年度の事業開始以来、地域内にひまわりハウスが 1 件という現状では、その利用者は、高齢者等が無理なく移動できる範囲内（徒歩で 15 ~ 20 分以内程度）の居住者に留まっていた。

今年度は、啓発イベントを実施した他、地域内の会合、県内各地からの視察研修等、あらゆる機会を捉えて、事業の必要性・重要性をアピールし、新たな活動拠点確保に繋げた。

『地域住民主体による暮らしの安心と充実を考える研修会』

【開催主旨】今後ますます進行する高齢化で地域はどのように変化し、私たちの暮らしはどうなっていくのか。地域での暮らしに不安を抱くことのないように、安心した生活が送れるように、私たちができることと一緒に考える。

○平成 28 年 6 月 19 日

○約 110 名参加



【基調講演】

田中 尚輝 氏

認定 N P O 法人市民福祉団体全国協議会 専務理事

【演題】

「改正介護保険下の総合事業の進め方について」



▲基調講演後は、「想像して創造しよう、みんなのこととは私のことへひまわりハウス活動から考える、これからこの地域に必要なことへ」をテーマにパネルディスカッションを行った

【視察研修受入】

『いちき串木野市まちづくり防災課 地区担当職員研修会』

○平成 28 年 8 月 25 日

○22 名

『伊集院地域自治会長連絡協議会先進地研修視察』

○平成 28 年 9 月 13 日

○65 名

『鹿屋市高齢福祉課地域包括ケア推進室視察研修』

○平成 28 年 9 月 15 日

○7 名

『南薩地域共生・協働推進協議会先進事例視察』

○平成 28 年 11 月 30 日

○25 名

『指宿市自治公民館長視察研修』

○平成 29 年 1 月 17 日

○84 名

『姶良市三船校区コミュニティ協議会合同研修会』

○平成 29 年 2 月 4 日

○27 名

【事業説明・事例発表依頼】

『姶良市姶良地区自治会連絡協議会研修会』

○平成 28 年 11 月 29 日

○約 117 名

『平成 28 年度鹿児島県コミュニティづくり推進大会（事例発表・パネリスト）』

○平成 29 年 2 月 7 日

○約 300 名

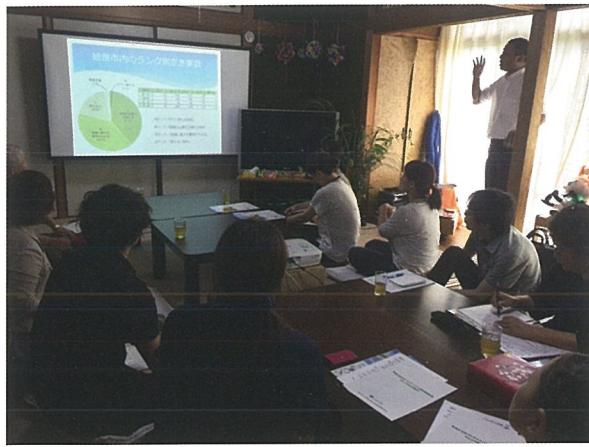
『姶良・伊佐地域共生・協働推進協議会』

○平成 29 年 2 月 23 日

○約 40 名



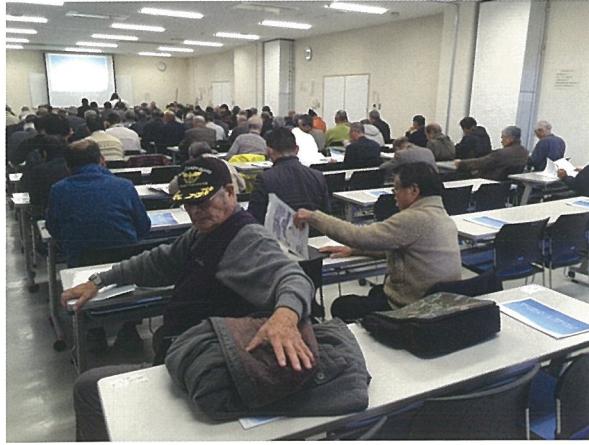
日置市伊集院地域自治会長連絡協議会視察研修
(平成28年9月30日 松原地区公民館)



鹿屋市高齢福祉課地域包括ケア推進室視察研修
(平成28年9月15日 ひまわりハウスたかちは)



南薩地域共生・協働推進協議会先進事例視察研修
(平成28年11月30日 松原上自治公民館)



指宿市自治公民館長視察研修
(平成29年1月17日 始良公民館)



三船地区校区コミュニティ協議会合同研修会
(平成29年2月4日 松原地区公民館)



姶良市姶良地区自治会連絡協議会研修会
(平成28年11月29日 姐良公民館)



鹿児島県コミュニティづくり推進大会(事例発表・パネリスト)
(平成29年2月7日 県民交流センター)



姶良・伊佐地域共生・協働推進協議会 共生協働啓発セミナー
(平成29年2月23日 姐良・伊佐地域振興局)



姶良・伊佐地域づくり活動表彰式
(平成29年2月23日 姐良・伊佐地域振興局)

おわりに

今年度の終わりを迎える「ひまわりハウス」を中心とした、私たち地域住民が主体となった取り組みは、少しずつ前進しているように感じている。

事業開始当初より課題であった、「運営に係る費用の捻出」については、平成29年4月からスタートする姶良市の介護予防・日常生活支援総合事業の「住民主体運営型介護予防事業業務」を当法人も受託するため、各ひまわりハウスを対象として、65歳以上の方の利用について、規定の委託料が支払われることとなった。「利用される方が、無理なく歩いて通えるよう、地域内に複数箇所のひまわりハウスを設ける」については、新たに空き家の提供があり、また地域内の公共施設や空きスペースを利用することにより、市内5か所にひまわりハウスが誕生した。

今後、ひまわりハウスを利用する方々の身体状況の変化に合わせた対応ができるようにと、前記した市の介護予防・日常生活支援総合事業の「自立支援型通所サービス事業」、「生活援助中心型サービス事業」を受託し、ひまわりハウス館長、地域の自治会長、各ひまわりハウスで中心となり活動をしている方々8名が、事前に「介護予防・日常生活支援総合事業従事者研修」を受講した。ひまわりハウスを中心として、地域の方々がそれぞれの経験等を活かし、支援を必要とする近所の方々の暮らしに添った活動の準備も整いつつある。

初めてひまわりハウスが誕生した松原地域では、子どもの健全育成支援、貧困対策のため、また新たな活動が始まっている。

地域住民が主体となり地域の課題に向き合い、住民一人ひとりのエンパワーメントの結果、課題が少しずつ解決に向かい前進することがさらに自信となり、次へ向かう力となっている。

これからもひまわりハウスをきっかけとした地域の活動が、私たち地域住民の暮らしやすさに繋がっていくことを願っている。

平成29年3月
特定非営利活動法人 L かごしま

※ひまわりハウスの活動については、ひまわりハウスホームページ
<http://himawarihouse.net>にて、情報を発信しています。

**独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
市民が主体となった共助による地域支援推進事業**

2017年3月31日

発 行 特定非営利活動法人しかごしま

〒 899-5653 鹿児島県姶良市池島町 20-20

TEL:0995-66-6818 FAX:0995-66-6820

E-mail:info@el-kagoshima.net

URL:<http://el-kagoshima.net/>